

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202700		
法人名	有限会社 エクセル		
事業所名	グループホーム あたご ユニット1		
所在地	長崎県佐世保市相浦町138-2		
自己評価作成日	令和1年10月5日	評価結果市町村受理日	令和2年1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和1年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ユニット 1

・生活の中に楽しみを見つけていただけるように、職員と一緒にさまざまな活動を考えています。得意の制作活動など、文化祭に出展するなど、発表する場所を提供出来るようにしています。また、地域の方々からお祭りなどの行事予定を聞き、入居者の方々が参加できるように協力していただいています。・入居者様の平均年齢も高くなってはりましたが、体調などを考慮し無理なく楽しんでいただけるように、少人数ずつの外出などを行っています。・施設の畑では、中学生と野菜の苗を植えたり、収穫作業を行うなど入居者様が経験がある農作業にも取り組んでいます

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所には、地域の町内会長からの情報提供、住民からの差入れ、災害時隣組の協力、10年以上続く中学生との交流など福祉事業への深い理解の下での協力体制がある。さまざまな事例から事業所が地域に根付いていることが確認できる。災害訓練は入居者全員が避難先に着くまで訓練しており、写真入りの記録として残し家族にも報告している。また、全居室に非常持出袋を設置すると共に備蓄も完備しており、入居者と職員の命を守るための対策は特筆すべきである。毎年行う職員アンケート結果は、資格取得希望から私的な相談まで多岐にわたり、代表の職場改善への配慮が窺える。食事の多彩さも特長の一つで、遠方の家族参加で敬老祝賀会を行う他、おやつ・ランチバイキングなど楽しい工夫がある。入居者に敬意を表し「ゆっくり、いっしょに、たのしく」過ごしてもらうため、職員が優しく接し、理念の実現に努める事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、一緒に、楽しく」の理念のもと、入居者の皆さんが楽しく、笑顔で暮らせるように職員の1人1人が努力している	理念は、玄関の目につく場所に掲示している。入職時に、施設長の説明や支援の中の先輩職員の指導にて意識の統一を図っている。これまでを家族のために頑張ってきた入居者に、これからはゆっくりと楽しみながら過ごして貰えるよう、職員は穏やかな気持ちで理念の実現に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事・お祭りに参加したり、災害時の避難訓練を町内の方々と一緒にするなど、交流を深めている	地域の情報は町内会長から得ており、祭りでは、車椅子の入居者も出店の買物を楽しんでいる。園児との交流、中学生の福祉体験、フラダンス慰問など交流の機会は多くある。文化祭への出品、清掃への職員参加、野菜やタオルの差入れ、災害時協力の確約など双方で日頃から交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、地域の方々に入居者の方々の様子を伝えたり、町内の中学校と協力し、認知症に対する理解を深めてもらうために職場体験学習の受け入れを行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議では、施設行事や避難訓練、入居者の方々の体調管理や感染防止への取り組みなどを報告し、地域の参加可能な行事を教えていただき、地域とのかわりを増やしていけるようにしている	町内会長、民生委員、包括職員に加え、入居者や家族も参加している。2ヶ月ごとの開催で、入居者情報、活動・研修報告や活発な意見交換がある。欠席者には会議内容を伝えている。入居者が地域と関わられるよう、高齢者の集いの場や行事など情報収集を行い、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターとの情報交換や市主催の研修会や勉強会に参加している	申請手続きは、市担当窓口を訪問している。事業所の職員体制など実情を伝えたり、入居者に関する相談を行っている。また、市担当職員の入居者への面会がある。行政から案内の研修を受講している。包括職員から地域独居者の情報を得て、見守るなど協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をおこなわない介護を基本としている。常に職員同士で、拘束につながらないかを検討している。やむを得ない場合ご家族と十分に話し合いを行い、書面にて説明、同意、確認を行いカンファレンスでは検討会を行っている	職員は、「高齢者不適切ケア」についての外部研修や事例検討など内部勉強会に参加しており、身体拘束の意味を理解している。やむを得ない場合、家族と話し理解を得ているが、週ごとに検証し、代替案がないか検討している。玄関施錠はなく、拘束のない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部、内部の虐待防止の研修や勉強会に参加したり、職員同士で虐待につながらないように話している。また日頃より、身体の観察(入浴時には皮膚状態の観察など)をおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用している入居者様がいなく、触れる機会は少ないが、認知症を患っている方の制度の活用は多いと思われる。今後学習する機会をもっと増やしていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に面談を行い、本人やご家族が抱える不安を把握したうえで、施設の取り組み、支援方法などを説明している。入居後もご家族の協力が必要であることも理解していただけるように説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族も出席していただき、情報提供をおこなったり、敬老祝賀会の際にはご家族同士や職員との懇談、意見交換の場を設け、質問や意見を聞けるようにしている。	家族の面会時に意見や要望を聞き取っている。対応した職員は送りノートに記録すると共に直接口頭で伝達している。家族同士が交流する機会として敬老祝賀会を催している。遠方の家族も月に1回は訪れており、入居者の様子を共有している。これまでに往診結果を毎回知りたいとの声があり、反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体カンファレンスにて職員からの意見や要望の聞き取りを行ったり、職員アンケートを実施している。必要に応じては個別の面談を行い対応している	毎月の全体カンファレンスには全職員が参加しており、気になること等を話し合っている。また、日々の支援の中で職員がアイデアを出し、ユニットで検討し、管理者、施設長に伝えて実践している。事業所では職員アンケートを実施しており、その結果を基に個人面談する仕組みがある。これまでにフロアの椅子の買い替えなど反映がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得、有給取得、健康状態の相談、勤務希望など、勤務に対しての不安要素を把握し可能な限り解決できるように取り組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員アンケートにて、今後の資格取得、希望する研修内容などの聞き取りを行い、学習を支援できるように努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や近隣の施設での職員同士の意見交換会や介護職の不安や悩みなどを話せる座談会などに参加をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	在宅生活の方、入院中の方など、事前に入居前の生活環境をよく把握し、入居後不安なく生活できるように、情報収集や聞き取りなどを行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に対するご家族の心配事を細かく聞き取り、入居者が1日でも早く落ち着いた生活を始める事が出来るように話し合っていく		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員全体でさまざまな支援方法を検討し、そのケアの方針についてご家族とも話し合い、安心してスタートできるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居様が出来る活動を一緒におこなったり、好きなことを継続できるように、普段から対話を多く持つようにしているが、認知機能低下や意欲低下がみられる方に対してどう行動するかなど、その都度職員間で話し合いながら行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、入居者様の近況を伝えたり、心配事がないかなどを確認している。ご家族が県外にお住まいなど、面会頻度が少ないご家族には必要に応じて、主治医からの健康状態の説明なども受けていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでいた住居周辺のお知り合いや、友達などは進んで面会に来ていただいている。しかし、入居して日が浅い方は、不穏行動の一因ともなる事があるので、面会後の言動に注意する	家族以外に近所だった人や元職場の同僚などの訪問がある。職員も一緒に昔の話を聞いており、職員間で共有すると共に家族にも伝えている。自宅近くの美容室利用は家族の協力を得ている他、年賀状や葉書の投函、本人の希望に沿って電話を掛けるなど個別に支援しており、関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中、1つのテーブルでゲームしたり、お手伝いをするなどして関わりを持っているが、コミュニケーションが上手く取れない方や、聴覚機能が低下された方など、孤立しないように、職員が間に入り、楽しい会話が出来るようにサポートしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方とのかかわりは、少ないのが現状だが、相談の受付や面会など必要に応じて対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どのような悩みや心配事があるかを把握するために、可能な限り対話を多く持つようになっているが、実際はゆっくりとした時間の確保は難しく、入浴時や夜勤時に話やすい空間を作るように気をつけている	在宅時の様子は、包括支援センターや訪問介護事業所などから情報を得ている。以前利用していたデイサービスの職員が訪れることもある。表出困難な場合は、それまでの生活や家族からの情報を参考にしている。ただし、聞き取った生活歴の記録は各種記録書式となっており、集約できていない。	日々の暮らしの中で知り得る本人の生活歴は、支援の向上に繋がるため、集約することが望まれる。検討、取組みに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活の中で、かかわりが深い方など、縁が途切れる事がないように、近隣の方々、以前のサービス事業所や医療関係者、他職種の方などからの情報の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックに加え、持病の進行、運動機能の低下、食事摂取量など小さな気づきを見のがさないように、職員同士で情報を共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスにて、身体機能や精神の安定、ご家族との関わり具合など、利用者様が不安なく過ごせるように、出来るだけ多くの情報を出し合い計画作成に努めている	介護計画は、長期1年、短期6ヶ月で、モニタリングは3ヶ月ごとに行っている。QOL向上のための目標設定となっており、実践状況もわかりやすい記録である。送りノートにて各ユニット間の共有もある。見直し時は、本人・家族の意向を聞き、承認を得て実践に繋げている。ただし、本人・家族の意向に変化が見られない。	入居者と日々関る中で、本人が発した言葉から意向を汲み取ることに期待したい。また、家族面会時など本人の様子を伝える中で支援の意向、思いを把握し、更なる計画の質の向上に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中の活動の加え、食事・水分の摂取状況、体重測定や入浴時の全身状態の観察を行っているが、不穏行動が見られる方などは、言動の要因を職員間で話し合いながら、情報を共有するようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人1人の変化に対応出来るように努力しているが、既存のサービスを利用する事がほとんどで他のサービスを取り入れる事ができていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の中学生の職場体験学習の受け入れや文化祭への作品出展など、日頃の制作活動の作品を出展し見ていただく事で、今後の活動意欲を継続できるようにサポートしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族が今までの主治医の診察を希望されれば、継続は可能。施設主治医には月2回の往診、夜間を通し24時間対応をしていただいている。専門科目の診察を希望される場合は他の医療機関への紹介も対応している	協力医の月2回の往診と看護師の訪問が月2回ある。かかりつけの内科や他科の受診は、基本的に家族支援であるが、家族が遠方の場合、職員が支援している。受診結果は、職員、家族と共有している。夜間緊急時は、協力医の24時間の医療連携があり、職員も緊急時対応マニュアルに沿った対応を理解している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的(月2回)に施設を訪問していただき、健康観察、入居者様の気になることを相談したり、主治医へ報告していただいている。インフルエンザなどの地域の流行性感冒の情報などいち早く受けることができている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の医療機関との情報のやり取りは、電話や書面でもおこなうが、退院前は直接病院へ出向き、リハビリの様子を観察したり、看護師から退院後の注意点を聞き、施設では受け入れ準備の為に、主治医にも状態を報告し、アドバイスを受けている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や見取りの指針を入居時に確認していただくが、定期的な往診に加え、体調不良の早期発見に努め、常に職員間、ご家族とも話し合いながら必要な支援を決定し取り組んでいる	契約時、重度化や看取り指針を基に、家族の協力なしでは行えないことを家族に説明し、書面で同意を得ている。入居者の状況変化を察知し、早めに主治医と話し合い、家族の意思確認を行っている。今までに看取りの事例はないが、事業所で可能な限りの支援を行っている。今後は、研修を行い、将来的には検討していく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内でAED、心肺蘇生などの救急対応の研修をおこなったり、夜間帯の急変時に対応できるように常に、職員間で行動の確認、マニュアルの見直しを行っているが、職員アンケートでは、「実践力には自信がない」などの不安要因として記されているため、不安を取り除けるようにしていく必要がある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年間を通して、火災訓練・災害訓練をおこなっているが、そのうち1回～2回は消防署、地域の方々と一緒に訓練を行っている。訓練後は地域の方にも意見を伺い、振り返りを行っている	消防署立会いでの火災訓練の他、年2回、総合訓練と隣組への救助要請訓練を自主訓練として、昼間想定で実施している。消防署の総括を次の訓練に活かしている。災害時訓練を全入居者、地域参加で実施している。自動通報には消防団員を含む隣組の登録がある。各居室に非常持出袋、他医薬・衛生品、非常食、飲料水を完備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、自尊心を傷つけないように、言葉かけには注意しているが、時々荒い言葉使いになっているときがあり、職員同士お互いに注意しあっている	職員は入居者の尊厳に配慮し、名前にさん付けで呼んでいる。また、帰宅願望が強い時には、様子を見ながら見守る他、職員が交代して対応するなど工夫している。失敗時もさりげなく誘導し、居室内で更衣するなど、羞恥心への配慮もみえる。ただし、個人名への配慮や写真記載、TV撮影の同意が確認できない。	個人情報保護の観点から、事業所内の入居者の個人名が見えていることについては検討、取組みに期待したい。また、写真掲載やTV撮影など利用目的がそれぞれであるため、事業所として分別し同意を得ることが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、やりたい事、行きたい場所などを尋ねたり、また希望する事を伝える事が出来るような雰囲気作りを心掛けているが、業務の慌ただしさで十分に行えていないときが多いと感じる		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分等を考え個々にあった対応をと考えているが、身体介助の時間が長い方や身守りが必要な方も多く、全ての方が希望に添った過ごし方ができている状況ではないと感じることもある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好きな色、柄などを把握し、洋服の買い物などを行っている。定期的に近くの美容室を利用し、カットやカラーなどをしていただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や食べやすい食材を利用し献立を作成し、施設の畑でとれた野菜も使用する。施設行事では、バイキング方式で好きなおかずを食べていただいたり、おかずの野菜の下ごしらえなど手伝っていただいている	入居開始時に嗜好調査し、日々の献立に反映している。職員が献立を立て、調理担当職員が調理し提供している。キザミ食やミキサー食、トロミを付けるなど一人ひとりに合うよう配慮している。畑では自治会長が苗植えを手伝ってくれており、旬の野菜がふんだんにある。おやつバイキングや外食など楽しむ機会も多い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の水分量が過剰摂取にならないように、疾患に合わせた量を主治医と相談し決めている。食事は食べやすい形態、キザミ食やミキサー食にも対応し、嚥下力が低下されている方には汁・お茶などトロミをつけている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後だけではなく、食前、起床時など1日に数回のイソジン消毒によるうがいを行っている。夕食後には義歯を回収して消毒を行い、義歯の不具合には歯科受診で対応している		

グループホームあたご ユニット1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを記録し、把握している。職員間で情報を共有し、失敗を軽減するため、こまめにトイレ誘導をおこなっている。夜間にオムツを使用している方は、時間おきの交換を行っている	日中、入居者は全員、居室のトイレで排泄しており、職員は排泄パターンを記録し支援している。全員がリハビリパンツを着用しており、夜間帯にオムツ使用もある。現在、失敗はほとんどなく快適な生活となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日の水分が不足しないように注意したり、排便を促すために毎日の運動も行っている。便秘症状が強い方は、主治医に相談し下剤にて対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる。気分や体調によっては入浴を拒否される事もあるが、無理強いはいらない。入浴剤を入れて、色や香りを楽しんでもらっている	2ユニットとも毎日午後から入浴できるよう準備し、週3回の入浴を支援している。入浴以外の日は清拭や全更衣など清潔保持に努めている。入浴拒否の場合は職員を変えたり、時間を置いて声掛けしている。本人が好む化粧水や乳液を使用したり、全員浴槽に浸かることができおり、入浴剤を使って、入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調に応じて臥床されている。高齢のため、適宜横になる時間を確保している方もおられる。また、夜間十分な睡眠が取れるように日中に体を動かしていただくようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の内容は、全職員が把握し、変更時には申し送りなどで情報を共有できるようにしている。飲みやすい薬への変更(錠剤から粉薬へ)を主治医や薬剤師へお願いしたり、内服が苦痛にならないように努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好みの作業であったり、好きな制作活動があるため、活動意欲を継続できるように、見守り、声かけを行っている。気分転換にドライブや音楽鑑賞などの施設慰問も受け入れている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設では季節のドライブや外食に出かけることもありますが、ご家族との外出の回数は、平均して減ってきているように思われる。外出時の身体介護の大変さなどが原因と思われるため、ご家族の負担軽減が出来る外出支援も考えていかなければいけないと思う	入居者は職員の支援の下、日々、ベランダで日光浴したり、戸外の散歩を楽しんでいる。季節の花見やおくんちや祭りなど外出が多く、できるだけ全員で行けるように配慮している。また、おやつ外食は午後から全員で出掛けている。普段の生活の延長となる外出の多さは特長である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の中に金銭管理が可能な方がおられず、事務所にてお預かりしている。必要なものがあるときはいつでも出し入れ可能で、職員と一緒に買い物に出かけることもあり、家族にも収支が報告できている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をかける機会は少ないが、母の日の贈り物に対してお礼の電話をされたり、かかってきた電話に対しては、職員の介助を受けながら話される方も多い		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアー、居室など毎日清掃を行い、フロアーの壁には季節の壁飾り、入居者様の制作した塗り絵や作品、施設行事のスナップ写真などを展示している。	1階と2階のフロアーでは、季節感を味わうことができる貼絵や折り紙、文化祭出展作品など、随所に飾り、温かい雰囲気である。入居者が、テーブルで作品を作ったり、職員と談笑する様子が窺える。キッチンの調理風景は家庭的である。職員による清掃、温度計や体感による温度管理で、快適な共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにはソファもあり、好きなときに座っていただいている。ご家族の面会時にはソファで話をされる時もある。ゲームを楽しむときは、孤立されないようにみんなで同じテーブルを囲んでいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分で制作された作品や写真を飾ったり、宗教的な写真(マリア様)や必要であれば、仏壇の持ち込みも行っており、習慣になっているお祈りや仏様を拝んだり出来るようにしている	居室は、職員の手作り暖簾が掛けられている。自宅と同じに過ごせるよう仏壇、位牌、テレビ、ラジオ、写真、自作の塗絵などがある。トイレへの動線を考慮しベッドの配置を決めている。ベッドメイキングをする入居者がいる。シーツ交換は、週1回と随時、清掃は毎朝職員が行い、カーテンを開けて換気するなど清潔で過ごしやすい居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアー、居室、トイレや脱衣所などの手すりをつけており、安全に移動出来るようにしている。また、居室入り口には職員手作りの名前プレートや名前入りの暖簾をかけている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202700		
法人名	有限会社 エクセル		
事業所名	グループホーム あたご ユニット2		
所在地	長崎県佐世保市相浦町138-2		
自己評価作成日	令和1年10月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】 ユニット 2

・生活の中に楽しみを見つけていただけるように、職員と一緒にさまざまな活動を考えています。地域の方の踊りや音楽の慰問受け入れや、得意の制作活動を文化祭に出展、披露するなど、発表する場所を提供出来るようにしています。また、地域の方々からお祭りなどの行事予定を聞き、入居者の方々が参加できるように協力していただいています。・入居者様の平均年齢も高くなってはりましたが、体調などを考慮し無理なく楽しんでいただけるように、少人数ずつの外出などを行っています。・施設の畑では、中学生と野菜の苗を植えたり、収穫作業を行うなど入居者様が経験がある農作業にも取り組んでいます

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、いっしょに、たのしく」の理念を心がけ、出来る事は一緒に教えたり、教えられたりしながら、楽しく、毎日幸福を感じていたできるように日々努力している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加をしやすいように、町内会長さんや地域の住民の方々と相談しながら活動している。また、火災訓練などご協力いただいている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々との交流を心がけ、町内の方から認知症についてや入居の相談を受けたり、施設の活動に関しても相談を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議には、ご家族、民生委員、町内会長、包括支援センター職員に参加していただき、意見交換、入居者様の様子を報告したり、要望などがあれば、実践できるように務めている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への出席していただいたりや市主催の研修会などがあるときは職員が参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をおこなわない介護に取り組んでいるが、夜間は防犯のため、施錠している。日中は、見守りや対話にて対応しており、また、定期的に研修などの参加し、身体拘束防止について理解を深めるようにしている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	日頃から、入居者様を敬う気持ち大切にし、言葉遣いなども気をつけている。また、カンファレンスの場で虐待防止などの勉強会の場が設けられている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修やカンファレンスなどで学ぶ機会はあるが、現在のところ活用はしていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、利用者様やご家族が納得できるまで説明を行い、不安なくご契約できるように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族がご面会にこられた際にお声かけしたり、毎月のお便りにて、意見や要望を施設や職員に伝えやすいようにしている。また、敬老会の時にご家族が集まり、施設へ質問、意見を伝える場がある		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスの場で意見を言ったり、日常的にも意見や提案は聞いてもらっている。また希望すれば個人面談を行ったりして、相談をしやすいようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員アンケートにて体調確認や不安な業務がないかなどの聞き取りがあったり、今後学習したい事などを伝える事ができる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市や社協、県などの研修だけではなく、実践的な研修や個人の資格取得に対し、協力している。また、数年後に考えている資格取得など、情報提供をしてくれる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設での意見交換や介護職の悩みなど、同じ経験年数の方と話をしたり、他施設の日々のレクリエーションや活動などを学ぶ機会がある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の訪問や面談等でご本人が困っていること、不安なことに耳を傾けながら、安心して生活が送れるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が今まで見たり感じたこと、大変だったことなどさまざまな思いを汲み取り、施設生活を始めるにあたっての不安などをきちんと聞き取るようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず何が一番困っているのかななどを、ご家族を含め検討しサービスを決定している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、コミュニケーションを多くとり、教えたり、教えられたり共に生活するもの同士としての関係を築けるように努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とはこまめに連絡を取り合い、信頼関係を築き、協力していただける事は願います。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長年の友人やご近所さんなどご面会にこられた際など、写真を撮り見ていただく。今も変わらない関係が続いていることを理解していただき、また関係が途切れないようにして		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う方をとなりの席にしたり、レクリエーションでは、みんなで参加し合えるように、職員が間に入り話題を提供したり、会話の補助を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても、必要に応じて相談には受け付けている。入院にて退居になったときには、体調を伺ったりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや考えを言えるような雰囲気作りをおこなっている。出きるだけ希望に添えるように努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人とコミュニケーションを多くとり、その中で以前の生活環境や習慣となっていること、続けたいが出来なくなったことなどが無いかなど、細かく聞き取りをしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の1日の様子(活動や排泄、食事、健康状態など)を観察記入して、随時変化があったときには、職員同士で申し送りを確実にし、状態の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットでのカンファレンスや職員の日々の気づき、またご家族の面会時の気づきなど、話し合いを行い計画書を作成している。必要に応じて、主治医へ生活上の注意点を確認したり、疾患の進行状況などの説明を尋ねることもある		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録するが、体調面だけではなく、精神が安定されているか、他者との関係性や活動の意欲面など細かい観察を情報として職員間で話し合い、臨機応変にサポートできるように努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存の施設サービスの活用がほとんどで、ご家族の意見などを取り入れながら、外部のサービスの利用も考えていかなければならないと思う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のフラダンスの踊りや楽器の演奏慰問など、定期的に受け入れ楽しんでいただいている。中学生の職場体験学習は3日間あり、毎日の制作活動や畑の作業などを楽しまれている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医院の継続も可能だが、施設かかりつけの病院へ変更される方がほとんど。病院間では、内服や定期的な検査など情報提供は確実におこなわれており、不安なく継続できており、月2回の往診、24時間対応をいただいている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診とは別に、月に2回の健康観察を行っている。入居者様の状態に変化があれば、主治医へ報告していただき、必要時には受診をおこなうなど連携が取れている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたときは、病院と連絡を取り合いながら、施設復帰が可能であれば、受け入れるための準備(居室の環境整備、食事、入浴などの)話し合いをおこなったり、病院へ面会に行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との話し合いを早めに行い、主治医からの説明や情報を受け、施設で出来ることを話し合うなどを行っているが、最終的な看取りまでの経過は現在のところない。だが、常にそこまでの意識が必要と感ずることがある		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に備えて、緊急対応のマニュアルもいつも見れるように掲示しており、研修もあるが、冷静に対応できるように努めたい		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	消防署立合いでの火災・災害訓練を行っている。火災訓練は、昼間や夜間を想定した訓練を行い、地域の皆さんにも参加していただくこともある。火災時には、近所数件に自動的に通報され、連絡がいくようになって		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様1人1人の人格を尊重し、傷つけることがないように、言葉使いなどに注意している。職員同士の話し方にも注意するようにしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を話しやすい雰囲気作りや自分で決める事が出来るような会話をするようにしているが、ゆっくりと時間をかけて、、という点が十分ではないと感じるため、改善していく必要がある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や体調を考慮し、臥床を希望されるときは、時間をとり休んでいただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に、ご近所の美容室や理容室でカットをしていただいている。毎日の洋服も、ご自分で決めることが出来る方には、好みの服を選んでいただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえや食後の茶碗拭きを手伝っていただくこともある。入居者の方々に食べたいものを伺ったり、食事を楽しめるメニュー作りを行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事を楽しむことを一番考える。個人に合わせた食事量や水分量を把握し、食事形態もその方にあったもので提供する。体重の急激な増加や減少、浮腫などの全身状態の変化にも注意しながら提供できるようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きは、自力で出来る方は見守りを行い、他その方にあった口腔ケアに努めている。義歯は毎日消毒を行い、破損や変形がないかなどチェックしている		

グループホームあたご ユニット2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り、リハビリパンツや尿とりパットを使用せず、各自の排泄パターンを把握し、早めのトイレ誘導などを行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように、水分量のチェックや、乳製品の摂取、毎日の運動など排便促しを行っている。便秘がひどくなったときは、主治医へ相談している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や状態に合わせて入浴を行っている。拒否されるときは時間をずらしてみたり、明日へ変更するなど、適宜対応している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方のリズムに合わせて臥床していただいている。夜間に十分な睡眠が取れるように、日中に体を動かすことも促している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は個人の薬の内容を把握し、同時に副作用や注意事項も把握するように努めている。急な内服の変更などは、申し送り等で確実に情報を共有するようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の好きなことややりたいこと、能力などによって、毎日活動内容を検討している。会話を楽しむ日もあれば、おはじきや塗り絵、計算ドリルなど色々なものに取り組みれることもある		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人やご家族の希望で、年末年始を自宅で過ごされたり、外食へ出かけられるなど、施設行事にもドライブを設定している。ご家族と安心して外出が出来るように、サポートしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様とご家族の了承を経て事務所でお預かりしている。必要時にはいつでも出せるようになっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話をかけたたりすることも出来る。手紙や年賀状のやり取りも行っている。かかってきた電話は、聞き取りが出来ないときは介助を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常的に清潔に心がけ、フローア―は四季に合わせた飾りつけをおこなったり、温度調整や空調管理を行っている。施設行事の際の写真も掲示している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分の席以外に、フローア―にはソファ―が置いてあり、気が合う方とお喋りされたり、1つのテーブルでみんなでレクリエーションを楽しまれている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や小物を持ちこまれたり、壁には作品や写真などを飾っている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は手すりが設置してあり、安全に歩行できるようになっている。各自の居室には、手作りの名札や暖簾がかかっている。		